初恋

長良 水音

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
初恋

【Ｎコード】
Ｎ３３９１Ｈ

【作者名】
長良　水音

【あらすじ】
第一話への導入として記載している。主人公”薫”と”晋也が薫の失恋について話し合っている場面。

序文

「お前はまだ恋する姿勢ができてないんだよ。」
いわゆる合コンで知り合った女と、３回遊びに行った末に振られた際に晋也に言われた言葉だ。
「いやいや、マユリンのこと普通に好きだったんだけどなぁ。」
「好きだったら、今回のデートはこうやってああやって、ここまで仲良くなりたい。今度もまたデートしたいから、次のデートにつながるような話題を振る。そういった努力が自然と出てくるもんなんだって。薫はただデートの約束をして、デートを行っているだけだ。」
「いやでも・・・」
「目的意識がないんだよな、あえて言うならデート自体が目的になってる。薫は彼女が欲しいだけで、マユリンを彼女にしたいわけじゃないんだよ。」
晋也のやつ、振られた時ぐらい慰めてくれてもいいじゃないか、と思いながらも、聞いていると、ああなるほどと反省させられるところも多い。
晋也はすごく客観的な奴だ。
積極的に相手の気持ちを理解して、こんな言葉をかけてほしいんだろうななんていう推測は一切しない。感情的になることもなく、ただ聞いた事実から客観的に感じたことを結構的確に指摘してくる。
そこが晋也の悪いところでもあり、いいところでもある。
実際、晋也のそんな性格に何度も助けられているのだ。
「まあ、もうすぐ同期の飲み会も近いし、その時に発散すればいいよ。」
「・・・そうだね。」
適当なことをいう奴だな、そう思いながらもとりあえず相槌を打つ。
入社３年目の同期会か、もう一人前になっていもいいはずなんだけ

どな、恋愛的にも人間的にもあまり一年目と変わっていないな。なんて悲観的なことを考えつつ、まぁいいや、とにかく適当に発散して忘れればいいかぐらいに思い始めた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3391h/

初恋

2011年1月12日15時16分発行